



Title	彙報
Author(s)	
Citation	懐德. 1977, 47, p. 56-57
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90556
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙
報

(懷德堂記念会)

会及び大阪大学文学部主催、朝日新聞社後援で、大阪大学松下会館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第五十四回懐德堂講座開講、聽講者延三百八十四人。

演題と講師

朱子の礼学 京都大学教授 上山 春平氏

中國文学の性質―政治性 摂南大学教授 山川 昭一氏

夫婦の氏の歴史 大阪大学教授 熊谷 開作氏

詩経について 高野山大学教授 庄司 荘一氏

白楽天の文学 京都府立大学教授 花房 英樹氏

列子説話考 武庫川女子大学教授 山口 義男氏

○評議員 正田建次郎氏 昭和五十二年三月二十日逝去。謹んで哀悼の意を表します。

○評議員 釜洞醇太郎氏 昭和五十二年四月十三日逝去。謹んで哀悼の意を表します。

○評議員 村山長舉氏 昭和五十二年八月七日逝去、謹んで哀悼の意を表します。

- 昭和五十一年十月十二日 幹事森川敏雄氏退任。南雲竜夫氏
(住友銀行秘書役) 幹事就任。
- 秋季講座 昭和五十一年十月十八日(月)より二十三日(土)まで、本会及び大阪大学文学部主催、朝日新聞社後援で、大阪大学松下会館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第五回懐德堂講座開講、聽講者延三百五十八人。
- 演題と講師

大阪城について 元大阪城天守閣主任 岡本 良一氏

大阪藏敷と堂島米市場 大阪大学助教授 宮本 又郎氏

町絵図から見た大阪 大阪大学 矢守 一彦氏

豪商の商法と家訓 一鴻池と住友の場合 同 作道洋太郎氏

産業都市としての大阪 大阪大学助教授 脇田 修氏

倉密局とハラタマ 大阪大学教授 芝 哲夫氏

- 春季講座 昭和五十二年五月二十三日より二十八日まで、本

(堂友会記事)

懷德堂記念扇子目録

(昭和四十一年以降)

昭和五十二年十月 中井履軒先生墨迹

(月落鳥啼霜滿天 江楓漁火对愁眠 姑蘇城外寒山寺 夜半鐘聲到客船)

昭和五十一年十月二十日 懐徳第四十六号発行。

十一月三日 近江路に石馬寺、淨嚴院、沙々貴神社の見学を成

す。御指導は宇野茂樹先生で、参加者三十余名、毎々乍ら一

同満足して秋の一日を十二分に楽んだ。

十一月五日 本会の創立者のお一人である山本橋信氏が亡く成

られた。謹んで哀悼の意を表します。

五十年四月二十四日 同じく近江の東北部の木之本町に觀音

寺、洞壽院を余吾に源昌寺を、終りに余吾湖畔徜徉、有益な

見学を成す。宇野茂樹先生御指導の許に。参加三十八名。

六月六日 長年懇切なお世話を仕て下つていた酒井全太郎氏が

御急逝、本当に悲しい残念な事でござります。恭々しくお悼

み申上ぐる次第。

七月二十三日から二十四日にかけての一泊見学会を成す。

第一日は米原町の青岸寺、蓮華寺を、徳源院では沢山の宝篋印塔を拝観出来て、殊の外に有益、宿は醒ヶ井養鱒場で、涼

しく静かで、鱒の珍しいお料理を。

第二日は長浜で総持寺、神照寺、米原へ帰つて真広寺と計六

ヶ寺を廻つた。

矢張講師は滋賀女子短大教授の宇野茂樹文学博士で、相い変

らず御懇切な御説明に一同十分満足させて頂く。参加者三十九名。

八月二十二日から二十七日迄での六夜、市内長堀の住友さんの
茶園山道場で、会長木村英一先生による第五回の夏季古典講
座としての論語の通説をさせて頂き、卷十四より巻を終る。

来年もう一回御統講を願い、完結の予定。出席者延べ九十

八名。御懇切且つ種々例証をお挙げ頂いて御蘊蓄をお傾け下

さる先生のお心配りは皆等しく深謝の外なく、殊に最終日の

は態々貴重な拓本とまた叶魯番から出土の茶話会で年少者の

筆に成る論語の古文書など、殊の外に興味が津々として、先

生の御厚意に対しては満腔のお礼を申上げます。

(中島記)

新入会者 岩井佳子、栗生照子、太田美都子、坂上竜一、田林

寛治、中野杜充子、久島 勉、鍬崎孝三、山本橋親。酒井正

雄。

退会者 藤沢鶴子。

死亡者 山本橋信、酒井全太郎。